



～ 夢ひとすじに ～  
**宮原中だより**

自ら学び 心豊かに たくましく

第 7 号  
平成 24 年 11 月 1 日 11 月号  
**さいたま市立宮原中学校**

メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

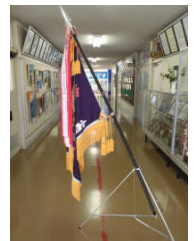
たすき

「襷」 = (イコ-ル)「絆」

校長 山下 誠二

先月末は、嬉しいニュースが続きました。さいたま市中学校駅伝競走大会では、男子が見事 2 回目の優勝、女子も 7 位に入賞、そして、初めて市民会館おおみやで開催された合唱コンクールでは、全てのクラスが緊張の中にも素晴らしい演奏をしてくれました。多くの保護者の皆様に応援、そして、鑑賞していただき、ありがとうございました。

さて、普段、その存在すら気づかなく、ましてや、そのありがたさや必要不可欠なものであることさえも忘れられているものに「空気」があります。同じように人間は社会的な動物ですから、絶対に忘れてはならないものに「絆」があります。息を止められてその苦しさから初めてそのことに気づくように、我々は、そのものが無いことによる苦しさや困難を味わって、初めて気づかされることがあります。駅伝練習に参加した多くの生徒は、精一杯やり遂げたという実感と駅伝チームとしての苦しさから味わうことのできる実感の両方を体験したと思います。駅伝の「襷」は、ただ襷を次の走者につなぐというだけではなく、先輩たちが残してきた実績や選手の支援に回った補欠選手の思いなど、重いものがぎっしり詰まっています。「襷」といえば、駅伝の代名詞のようですが、実は襷を受け渡しているのは駅伝だけではありません。我々は、先輩、先代の人たちが、命をかけて守ってきたもの、大変な努力で築き上げたものなどを土台として、今の豊かで平和な生活ができています。そして、我々が活動しているもの全ては、どこかで先輩や先代の人たち、あるいは仲間から襷を受け取っているのです。どんな人でも、そのずっしりとした重い襷が肩にかかっているはず。ところが、その襷の存在をなかなか意識することはありません。もし、その襷の存在を意識し、その重みを感じ取ることができれば、我々の日々の活動にも、自分が思っている力以上のものを引き出す何かを与えてくれるかもしれません。そうすれば、日々、過ごすだけで精一杯、仕事や勉強をするだけで精一杯などというようなことは少なくなると思います。又、感謝の気持ちも湧いてきて、新たな目標に向かう意欲も浮かんでくるはずです。宮原中学校も長い伝統の「襷」が受け継がれています。「子どもは、家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びる。」と言われます。一人ひとりの子どもを大切にしながら、保護者・地域との連携を図り、さらに強い信頼の絆を結んでいきたいと思ひます。



駅伝優勝旗

**市中学校駅伝競走大会 10月24日(水)**

～ たすきにかける思い～

**男子優勝！ 女子7位入賞！**

荒川総合運動公園において、さいたま市中学校駅伝競走大会が行われました。各選手、それぞれの力を出し切り、男子は見事第1位、女子7位入賞と輝かしい結果を残してくれました。男子は11月10日(土)熊谷スポーツ文化公園で行われる県大会にさいたま市の代表として出場します。皆さんの応援が、選手たちへの励みになりますのでよろしくお願い致します。



「壮行会」23日

**「歌声のたすき」合唱コンクール**

**感動に包まれた 市民会館おおみや 10月27日(土)**

2 学期最大の行事「合唱コンクール」、市民会館おおみやで初めて開催しました。本物の舞台上、全クラスの歌声を全員で鑑賞することができました。各クラスの演奏も大変レベルが高く、審査員を唸らせていました。特に3年生の演奏は素晴らしく、後輩たちへ「歌声のたすき」を立派につないでくれました。学年合唱は、その迫力も去ることながら、学年がひとつにまとまり、更に大きな感動を与えてくれました。約600家庭の保護者様においでいただきました。ありがとうございました。

3年8組は、11月8日(木)「小・中合同音楽会」に本校の代表として出場します。頑張ってきてください。

